

# ユーザーガイド

## Profoto Pro-D3

他言語は以下にアクセスしてください。  
[www.profoto.com/support](http://www.profoto.com/support)





## 新しい Profoto 製品をご購入いただきありがとうございます。 とうございます。

新しいフラッシュやライトシェーピングツールを含む弊社の製品には、ほぼ半世紀に及ぶノウハウが蓄積されています。

長らく弊社が重視してきたのは、わずかな細部にもこだわるということです。わたしたちは、十分に自信の持てるものだけを Profoto の製品としてお届けしています。各製品は出荷前に、多岐にわたる徹底的な検査を受けており、一定水準の性能、品質、および安全性に適合していない製品は出荷されません。

こうして出荷された Profoto 製品は、お客様を長期的に支援できると確信しています。とはいえ、製品の購入はその過程のほんの始まりにすぎません。ライティングには多様な創意工夫が伴いますが、弊社では、あらゆるライティング方法、幅広いライトシェーピングツールと常に最新技術を取り込んだ製品を提供できることを誇りにしております。

ライティングの可能性は無限です。最初は戸惑うかもしれませんが、すぐにコツを掴めるでしょう。

弊社の Profoto アプリをダウンロードして MyProfoto アカウントに登録していただくと、Profoto デバイスの管理や、製品情報とアップデートを確認することができます。トップクラスの写真家によるライトシェーピングを理解するためのヒントやコツもお届けします。弊社の持つ 50 年を超えるライトシェーピングの経験を分かち合うことで、皆さんの成長のお役に立てれば幸いに思います。

ぜひ Profoto 製品をご活用ください。

Conny Dufgran (創業者)

# 一般的な安全上の注意事項

## 安全上のご注意



### 重要な安全情報と警告!

装置を操作する前に、必ずクイックスタートおよび安全ガイドとユーザーガイドをお読みください。クイックスタートと安全ガイドは常に確認できるところに保管してください。Profoto 製品はプロによる使用を目的としています。Profoto 製品は屋内での使用を想定して作られています。湿度や強い電磁場にさらされる可能性のある場所、または可燃性のガスや粉塵のある場所に装置を置いたり、そのような場所で装置を使用したりしないでください。装置に水滴などがからないようにしてください。花瓶など液体の入った容器を装置の上や近くに置かないでください。水や塵、ほこり、虫などのゴミが製品に混入した場合は、主電源ケーブルをコンセントから外してください。装置に触れないでください。Profoto サービスにお問い合わせください。装置を湿度が高い条件下で急激な温度変化にさらさないでください。本体内部で結露が発生する可能性があります。他のメーカーのライトを接続したり、ライトシェービングツールを使用しないでください。保護ガラスカバーまたは保護グリッドのないフラッシュヘッドを使用しないでください。ガラスカバーにひびや深い傷などの損傷が目視で確認でき、効果が損なわれると考えられる場合は、装置を使用する前に、ガラスカバーを交換してください。ランプが損傷していたり、熱によって変形していたりする場合は交換してください。ランプをホルダーに取り付ける際は、素手でバルブに触れないように注意してください。必ず保護手袋を使用し、ランプを交換する前に装置を冷却してください。ストロボメーターのメンテナンスを実施する際は必ず保護手袋と保護メガネを着用してください。製品ケースにひびが入った場合は製品の使用をただちに止めてください。電源プラグから配電ケーブルを引き抜いた後、Profoto サービスまでご連絡ください。フラッシュ製品に使用されるタイプのコンデンサは破損する可能性を排除することはできません。破損した場合、フラッシュ製品から煙とともに鋭い臭いが放出することがあります。放出物が顔にからないようにしてください。もし放出物が目や口に入った場合は、水ですすいでください。放出物は無毒です。電解液が皮膚に触れた場合は、水と石鹸で洗い流してください。電解質は口にしないでください。必ずジェネレーターやライトのハンドルを持って運んでください。コネクタやケーブルを持って運ばないでください。車などの高温または低温の環境に放置された製品を操作したり、主電源に接続したりしないでください。製品を承認された動作温度に到達させてからご使用ください。2m を超える高さで装置を取り付けたり使用したりしないでください。スタンドを使用するときは、必ず装置がしっかりと取り付けられていることを確認してください。ご使用前にランプヘッドから輸送用キャップを取り外してください。閉所に設置しないでください。製品の周囲には常に換気のためのスペースを残し、換気口を覆わないでください。フィルター、拡散板などを装置の換気口や排気口の上に置いたり、ガラスカバー、モデリングランプまたはフラッシュチューブの上に直接置いて換気を妨げないでください。製品を日光、熱源、火などの過度の熱にさらさないでください。Profoto の製品は、写真や動画などの撮影を目的に提供されており、それ以外の用途は想定されていません。ユニットを掃除するには、中性洗剤で湿らせた柔らかい布で拭いてください。その後、別の柔らかい乾いた布で拭きとります。



### 警告 - 感電 - 高電圧

電源ジェネレーターは必ず保護アース接続のある電源コンセントに接続してください。ねじ込み式カバーを開けたり取り外したりすると感電する恐れがあります。本製品をご自分で修理しないでください。装置の点検、調整、修理は必ず公認の資格を持つサービススタッフのみが行うものとします。警告 - 稲妻のマークが付いた端子は感電の危険があります。装置は高電圧で動作します。フラッシュ、ジェネレーター、またはランプヘッドは、電源オフや電源ケーブルを取り外した場合でも、しばらくの間は感電の危険があります。アンブレラの金属製の支柱をリフレクターの穴に差し込む際、モデリングランプやフラッシュチューブに触れないようご注意ください。電源プラグまたは電源接続器は遮断デバイスとして使用されます。遮断デバイスは常に操作可能な状態にしておく必要があります。フラッシュチューブやモデリングライトを交換する場合は、電源プラグから配電ケーブルを引き抜いた後、最低 10 分お待ちいただいてから実施してください。装置を使用し終えたら、必ず電源コンセントから外してください。その際、ケーブルではなくプラグを持ってください。電源ケーブルを延長する場合は、家庭用の一般的な延長コードは決して使用しないでください。過熱する可能性があります。ご使用前にコード巻き取りリールを必ず完全に引き出してください。正規の装置については Profoto 販売店にお問い合わせください。正常なフラッシュチューブおよび / またはモデリングライトなしに装置を操作しないでください。



### 注意 - やけどの危険 - 高温部品

高温の部品に素手で触らないでください。モデリングランプやフラッシュチューブを使用すると、特定の金属部品、フロントレンズ、ガラスカバーが使用時に強い熱を発する場合があります。どのランプもごくまれに爆発し、高温の破片が飛び散ることがあります。モデリングランプやフラッシュチューブを人に向ける場合は近づけすぎないようにしてください。



### 警告 - 大きな音

装置から突然大きな音がする可能性があります。聴覚保護具を使用するか、ジェネレーターとユーザー/その他周囲の人との間に48 cm (19 inch) 以上の最低安全距離を取ってください。



### 注意

本製品から有害の可能性がある光線が放射されます。動作ランプを直視しないでください。目を傷める恐れがあります。フラッシュが発光されることを予期していない被写体や重機操作中の人、または予期しないフラッシュにより怪我や危害を引き起こす可能性のある活動を行っている人に向けてフラッシュを発光しないでください。遠く離れた場所からリモートでフラッシュがトリガーされることもありますので注意してください。

#### NOTICE

### RFに関する注意事項!

この装置は無線周波数帯を利用し、無線周波エネルギーを発生させます。デバイスの動作は現地の規制に従っていることをご確認ください。本デバイスが使用する周波数帯が他のユーザーによって使用中であることも考えられます。そのため、干渉の可能性を排除することはできません。規制や法令は随時変更されるので、最新のファームウェアとインストラクションを使用していることを確認し、ルールや規制に準拠していることを徹底してください。ファームウェアは、Profoto アプリを使ってアップデートできます。RF 被曝規制に基づき、エンドユーザーは通常の操作においてデバイスの20 cm以内に近づかないでください。

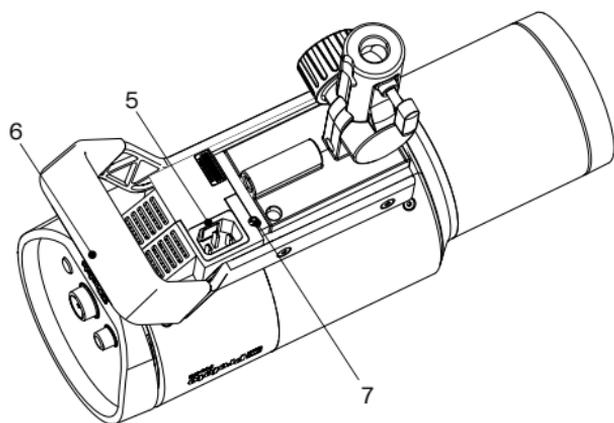
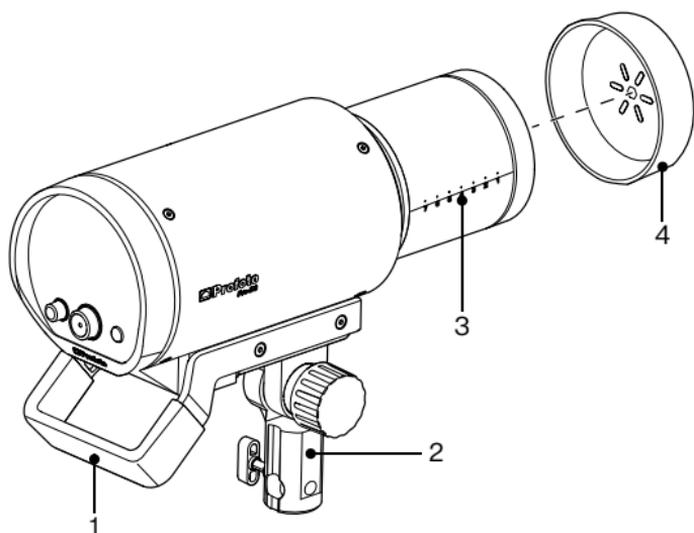


# 目次

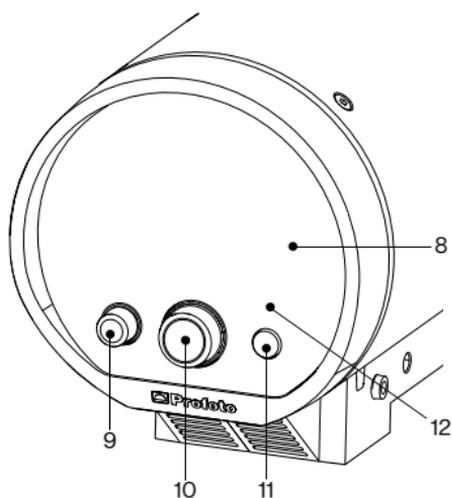
一般的な安全上の注意事項.....	4
各部名称 .....	9
はじめに.....	11
安全義務.....	11
ユニットの電源を入れる .....	11
製品登録とファームウェアアップデート .....	11
ライトスタンドに設置する .....	12
Profoto ライトシェーピングツールを取り付ける.....	13
基本的な操作 .....	15
電源オン/オフ.....	15
インジケータ .....	15
フラッシュの出力を調整する .....	16
定常光を調整する .....	16
Pro-D3 ユニットの状態.....	18
設定 .....	20
Air Group (Air グループ) .....	20
Air channel (Air チャンネル) .....	20
Air .....	21
Bluetooth .....	21
IR シンクロ.....	21
フラッシュモード .....	21
スピード .....	22
Continuous light (定常光) .....	23
一般設定.....	23
接続 .....	26
Profoto リモートとの接続を設定する .....	26
Profoto アプリ.....	27
メンテナンス .....	28
お手入れ方法.....	28
フロントガラス、フラッシュチューブを交換する .....	28
ハンドルを交換する .....	30
スタンドアダプターを交換する .....	31

その他 .....	32
過熱保護 .....	32
シリアル番号 .....	32
技術仕様 .....	33
保証 .....	36
クレジット .....	36

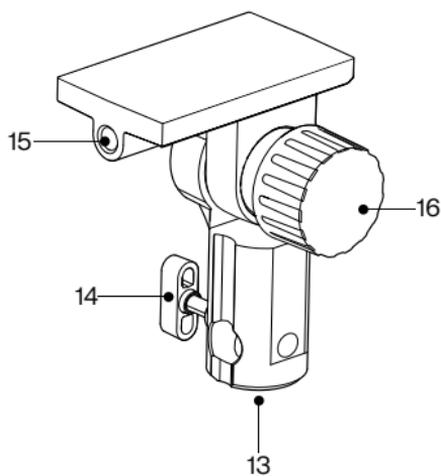
# 各部名称



- |               |               |
|---------------|---------------|
| 1. ハンドル       | 5. 電源接続       |
| 2. スタンドアダプター  | 6. USB(ハンドル裏) |
| 3. ズームスケール    | 7. 同期ポート      |
| 4. フロントガラスカバー |               |



- |               |                    |
|---------------|--------------------|
| 8. ディスプレイ     | 11. テスト&ON/OFF ボタン |
| 9. 定常光ライトダイヤル | 12. LED スタンバイ      |
| 10. メインダイヤル   |                    |



- |                  |               |
|------------------|---------------|
| 13. スタンドスタッドマウント | 15. アンブレラホルダー |
| 14. クランプねじ       | 16. チルトロックノブ  |

## はじめに

### 安全義務

Pro-D3 の使用を開始する前に、本ユーザーガイドのほか、クイックスタートおよび安全ガイドをお読みいただく必要があります。製品を安全に操作していただくための重要情報や、規制に関する重要情報が記載されています。多言語に翻訳されたクイックスタートおよび安全ガイドの冊子が Pro-D3 に同梱されています。また、本ユーザーガイドをダウンロードした場所から、同様にダウンロードすることもできます。

### ユニットの電源を入れる

1. 電源ケーブルコネクタを Pro-D3 背面の電源接続部に接続します [5]。
2. 電源ケーブルを主電源に接続します。

Pro-D3 ユニットが起動し、ディスプレイが点灯します。

### 製品登録とファームウェアアップデート

製品を初めて使用する前に、製品を登録し、最新バージョンに更新されていることをご確認いただく必要があります。下の QR コードをスキャンするか [profoto.com/setup](https://profoto.com/setup) にアクセスして、必要な手順に従ってください。

**Register your light  
for extra warranty**

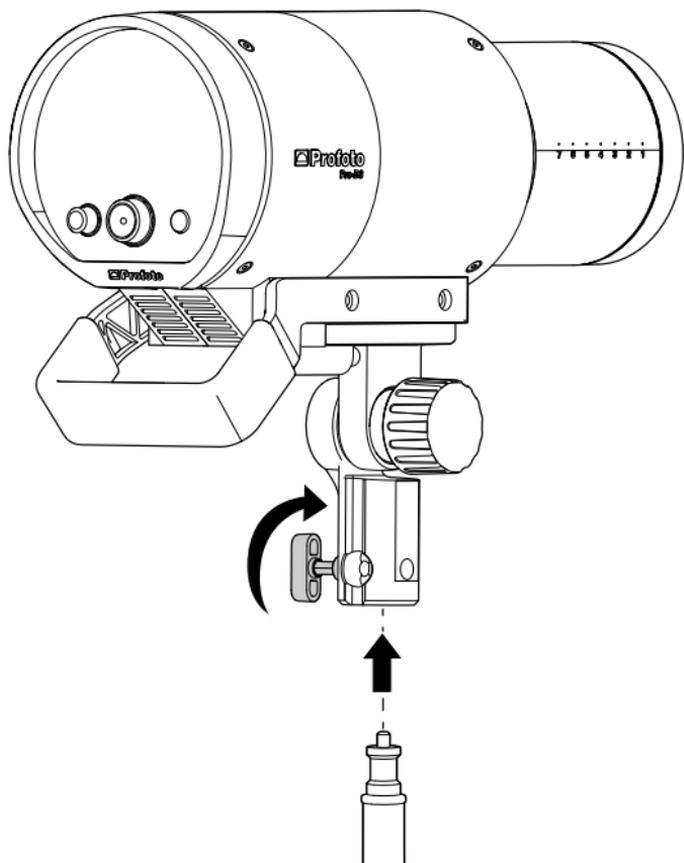


[profoto.com/setup](https://profoto.com/setup)

## ライトスタンドに設置する

Pro-D3 をライトスタンドに取り付ける前に、スタンドアダプターを取り付ける必要があります。スタンドアダプターを取り付けた後、以下の手順に従ってください。

1. スタンドアダプターをライトスタンドに取り付け、クランプネジ [14] で固定します。
2. チルトロックノブ [16] をゆるめて、チルトポジションを調整します。
3. チルトロックノブ [16] を締めてチルトポジションを固定します。



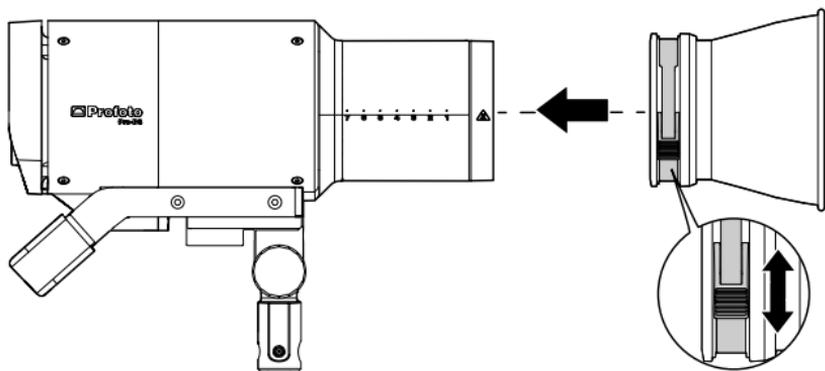
## Profoto ライトシェーピングツールを取り付ける

Pro-D3ユニットにはリフレクターが内蔵されており、高出力で広く均一な光の広がりを実現します。さらに本ユニットは120種類以上のProfotoライトシェーピングツールに対応しています。これらのツールを使うことで、多種多様な性質の光を作り出すことができます。

### 標準的なリフレクターマウント(留め具のあるゴム製カラー)でツールを取り付ける

ほとんどのリフレクターにはProfotoの独自のクランプ機構が搭載されています。このため、簡単に取り付けられる上、本ユニットでズームスケール [3] に沿ってリフレクターを前後にスライドさせるだけで光を形成できます。

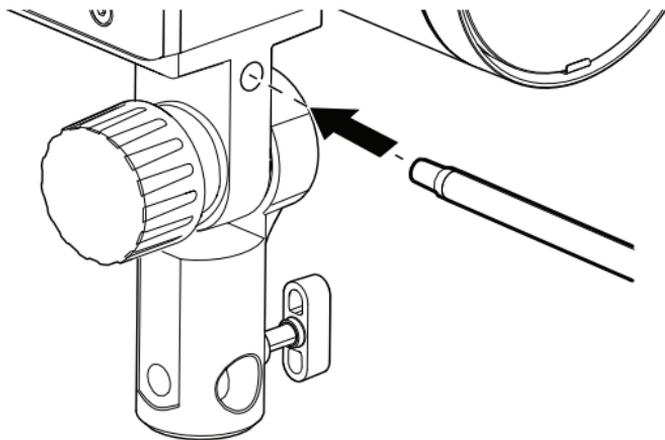
1. リフレクターの留め具をロック解除します。
2. リフレクターをスライドさせ、Pro-D3の上に動かします。リフレクターの位置を覚えておけるようにズームスケール [3] を使います。
3. リフレクターの留め具をロックしてリフレクターを固定します。



## アンブレラを取り付ける

アンブレラホルダーはスタンドアダプターに統合されています。アンブレラは、アンブレラホルダー [12] 内にアンブレラシャフトをスライドさせると、容易に取り付けられます。アンブレラホルダーにはめるには、アンブレラシャフトの直径は7mm~8mmでなくてはなりません。

1. ユニットにスタンドアダプターを取り付けます
2. アンブレラシャフトをスライドさせ、摩擦を感じる場所を通過してアンブレラホルダー [15] に入れます。
3. 引き続きアンブレラシャフトをスライドさせ、アンブレラがご希望の位置になるまでアンブレラホルダー [15] に入れます。



## 基本的な操作

### 電源オン/オフ

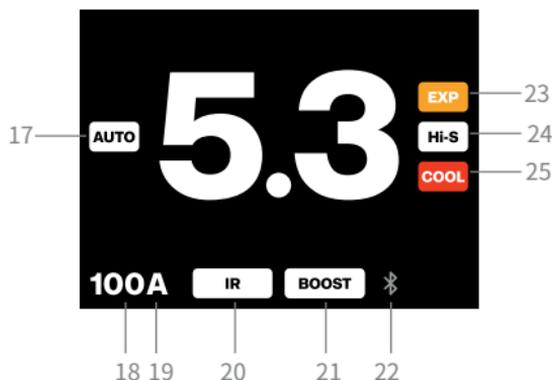
1. 電源を入れるには、テストボタン [11] を長押ししてください。
2. 電源を切るには、テストボタン [11] を長押しします。

ユニットのスイッチをオフにすると、現在の設定が保存され、ユニットのスイッチが再度オンになったときに適用されます。

### 注

一定時間操作がないと、本機は自動的にスリープ状態に入ります。スリープ機能の休止時間は、設定メニューで選択できます。

### インジケーター



- |                      |                      |
|----------------------|----------------------|
| 17. オート (TTLフラッシュ更新) | 22. Bluetooth        |
| 18. Channel (チャンネル)  | 23. 露出の警告            |
| 19. Group (グループ)     | 24. HSS (ハイスピードシンクロ) |
| 20. IRスレーブ           | 25. 過熱保護             |
| 21. フラッシュモード         |                      |

## フラッシュの出力を調整する

フラッシュ出力設定の数値は、大きな太字でディスプレイ [8] に表示されます。出力スケールは 0.1~10 の相対的な f-stop スケールです。最大出力は 10 として表示されます。

フラッシュ出力を変えるにはメインダイヤル [10] を使用します。

- メインダイヤル [10] を回すと、出力を 1/10 f-stop ごとに変わります。
- メインダイヤル [10] を押して回すと、出力を 1 f-stop ごとに変わります。
- テストボタン [11] を押すと、フラッシュをテスト発光できます。

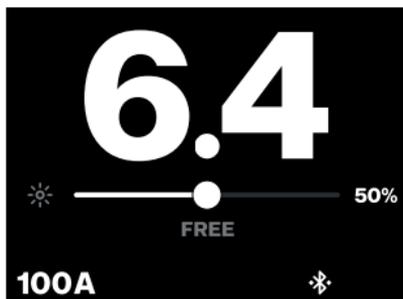
## 定常光を調整する

定常光は設定メニューで「FREE (フリー)」（工場出荷時設定）または「PROPORTIONAL (比例)」に設定できます。

1. 「FREE (フリー)」に設定すると、フラッシュ出力とは別に定常光の明るさを調整できます。
2. 「PROPORTIONAL (比例)」に設定すると、定常光の明るさは常にフラッシュ出力に比例します。

## 「FREE (フリー)」設定時に定常光を調整する

1. 定常光ダイヤル [9] を押すと、定常光をオンまたはオフにできます。
2. 定常光が点灯している場合、明るさはスライダー、明るさのパーセンテージおよびモデルラベル「FREE」で表示されます。

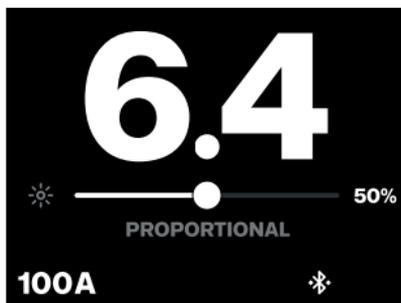


3. 定常光ダイヤル [9] を回すと、1%単位で明るさを変更できます。

4. 定常光ダイヤル [9] を押しながら回すと、10 %単位で明るさを変更できます。

### 「PROPORTIONAL (比例)」設定時に定常光を調整する

1. 定常光ダイヤル [9] を押すと、定常光をオンまたはオフにできます。
2. 定常光が点灯している場合、明るさはスライダー、明るさのパーセンテージおよびモデルラベル「PROPORTIONAL」で表示されます。



3. 定常光ダイヤル [9] を回すと、1 %単位で明るさを変更できます。
4. 定常光ダイヤル [9] を押しながら回すと、10 %単位で明るさを変更できます。

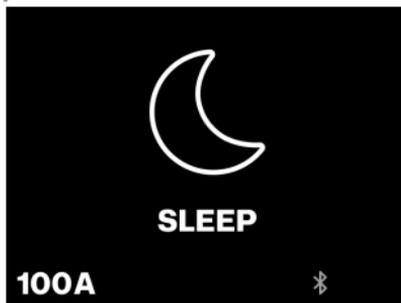
#### 注

プロポーションナルモードで定常光の明るさを変更する場合、出力の設定はそれに従います。

## Pro-D3ユニットの状態

これまで説明してきた通常の動作状態に加えて、本ユニットにはさらに3つの状態があります。

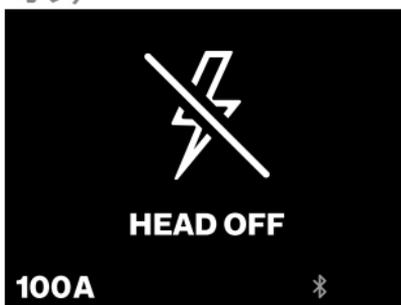
### Sleep (スリープ)



一定時間操作がないと、本機は自動的にスリープ状態に入ります。スリープ機能の休止時間は、設定メニューで選択できます。定常光が点灯している場合、本機はスリープ状態になりません。

スリープ状態では、電力を節約するために特定の機能とバックライトがオフになります。ただし、AirおよびBLE (Bluetooth Low Energy) 接続は有効な状態を保ちます。手動、アプリ経由、またはProfotoリモート経由で何らかの操作が行われると、ユニットは通常の状態に戻ります。

### Head off (ヘッドオフ)



本機は、リモートまたはアプリのいずれかから「Head off (ヘッドオフ)」を選択することによってのみ、「ヘッドオフ」状態に入ることができます。ヘッドオフ状態では、フラッシュ機能と定常光はオフになります。

リモコンやアプリから「ヘッドオン」を選択するか、本体のいずれかのボタンを押すか、ノブ/ホイールを回すと、通常の状態に戻ります。通常の状態に戻ると、ユニットは「ヘッドオフ」状態が作動する前と同じフラッシュエネルギーと定常光設定に戻ります。

## Mobile Capture (モバイル撮影)



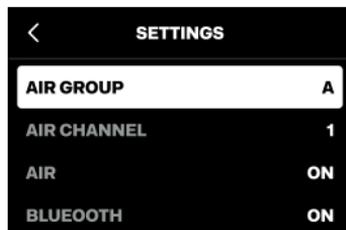
本機がカメラビューがアクティブな状態で Profoto Camera App に接続されると、「Mobile Capture (モバイル撮影)」状態になります。

この状態では、出力調整や定常光の点灯はできません。メインダイヤル [10] を押して設定メニューにアクセスし、テストボタン [11] を押すと、カメラが写真を撮影します。Profoto Camera App でカメラビューを解除すると、ユニットは通常の状態に戻ります。

## 設定

Pro-D3の設定はすべて、設定メニューからアクセスして選択します。

1. メインダイヤル [10] を押して設定メニューに入ります。



2. メインダイヤル [10] を回すと、設定メニューをスクロールできます。
3. 設定を変更するにはメインダイヤル [10] を押してください。一部の設定ではサブメニューが表示されます。
4. 前のメニューに戻るには、定常光ダイヤル [9] を押すか、メニューの最上部で左向き矢印の記号を選択してください。
5. メイン画面に戻るには、テストボタン [11] を押します。

### Air Group (Airグループ)

「AIR GROUP (Airグループ)」の設定を使うと、Profoto Air でワイヤレス管理したいグループ (A～F) を選択できます。工場出荷時の設定はグループ A です。

#### 注

「AIR GROUP (Airグループ)」の設定は、「AIR」が「ON (オン)」になっている場合にのみ選択できます。

### Air channel (Airチャンネル)

「AIR CHANNEL (Airチャンネル)」の設定を使うと、Profoto Air を使ってワイヤレスにトリガーしたいチャンネル (1～100) を選択できます。工場出荷時の設定はチャンネル 1 です。

#### 注

「AIR CHANNEL (Airチャンネル)」の設定は、「AIR」が「ON (オン)」になっている場合にのみ選択できます。

## Air

「AIR」設定を「ON (オン)」または「OFF (オフ)」に設定すると、Profoto Air ワイヤレス機能を有効または無効にできます。Air を無効にすると、ディスプレイ [8] の左下に「AIR OFF (Air オフ)」と表示されます。Air を有効にすると、設定されたチャンネルとグループ (たとえば「1A」) がディスプレイ [8] の左下に表示されます。工場出荷時は「ON (オン)」になっています。

## Bluetooth

「BLUETOOTH」の設定を使用すると、Profoto アプリの接続性を管理できます。「Profoto アプリの接続性」セクションを参照してください。工場出荷時は「ON (オン)」になっています。

- ON (オン) : Bluetooth が有効になり、Profoto アプリに接続できます。
- CONNECTED (接続) : ユニットは Profoto アプリに接続されています。
- OFF (オフ) : Bluetooth 接続が解除されます。

### 注

本機が CONNECTED (接続) の場合のみ、DISCONNECT (接続解除) オプションが選択可能となります。

## IR シンクロ

「IR Sync (IR シンクロ)」設定を「ON (オン)」または「OFF (オフ)」に設定して、赤外線スレーブセンサーを有効または無効にすることができます。工場出荷時の設定は「OFF (オフ)」です。

### 注

他のトリガー方法 (「AIR」など) を使用する場合は「IR Sync (IR シンクロ)」を「OFF (オフ)」に設定するよう強くお勧めします。

## フラッシュモード

「FLASH MODE (フラッシュモード)」の設定を利用すると、閃光時間優先モードまたは色温度安定性優先モードを選択できます。ECO、BOOST、FREEZE の 3 つの設定から選択できます。工場出荷時の設定は「ECO」です。

- ECO (エコ) : (ディスプレイにインジケータは表示されません)  
ECO モードは、ほとんどの使用例で推奨されるデフォルト設定です。このモードでは、色温度の一貫性が最適化され、機器の寿命を最大化します。
- BOOST (ブースト) : ディスプレイに BOOST インジケータが表示されます  
BOOST モードは、ECO フラッシュモードに類似しますが、最大出力が少し高められています。一般的に、BOOST モードは追加のフラッシュ出力が必要な場合にのみ一時的に使用することが推奨されます。
- FREEZE (フリーズ) : FREEZE インジケータがディスプレイに表示されます  
FREEZE モードは、飛び散る液体や粉体をブレなく撮影するために、極めて短いフラッシュ時間が必要な場合に便利です。FREEZE モードでのフラッシュ色温度は、ECO および BOOST モードと比較して、出力範囲全体でより大きく変化するのでご注意ください。

## 注

フラッシュのモード設定は、カメラの X-Sync 範囲内のシャッタースピードでフラッシュを使用する場合にのみ適用されます。ハイスピードシンクロを使用した短いシャッタースピードで撮影する場合は、設定による違いはありません。

本書の「仕様」セクションで「ECO (エコ)」と「BOOST (ブースト)」、「FREEZE (フリーズ)」のフラッシュ時間と色温度を比較していますのでご確認ください。

## スピード

SPEED (スピード) 設定では、本機の発光後のリサイクルタイムを指定します。「Reduced SPEED (減速)」は、ユニットの最大消費電力を下げ、ユニットがバッテリーインバーターや石油電気発電機など低水準の電源ネットワークまたは電気機器に接続されている場合に有効にすることができます。

スピードは 3 段階から選択可能で、工場出荷時は「MAX (最大)」になっています。

- MAX (最大) : 最速のリサイクルタイム。
- 50% : リサイクルタイムと最大消費電力を 50% に削減。
- 25% : リサイクルタイムと最大消費電力を 25% に削減。

## Continuous light (定常光)

「CONTINUOUS LIGHT (定常光)」設定では、定常光の強さを調整する方法を定義します。2 段階から選択可能で、工場出荷時は PROP (比例) になっています。

- PROP (比例) : 定常光の強さは常にフラッシュ出力の設定に比例します。この設定は、定常光をモデリングライトとして使用する際にお勧めします。
- FREE (フリー) : 定常光の強さは、フラッシュ出力の設定とは関係なく設定できます。この設定は、定常光をビデオライトとして使用する際にお勧めします。

### 注

「PROP (比例)」または「FREE (フリー)」のいずれかを選択した際に定常光を調整する方法については、「定常光を調整する」セクションをご覧ください。

## 一般設定

### Ready signal (充電完了信号)

「READY SIGNAL (充電完了)」の設定では、フラッシュ発光後に完全にリサイクルされ、再びフラッシュ発光の準備が整ったことを本機で示す方法を設定します。4 段階から選択可能で、工場出荷時は SOUND (サウンド) になっています。

- SOUND (サウンド) : リサイクルしてフラッシュの準備が整うと、本機からピーツという音が鳴ります。
- DIM (ディム) : フラッシュの後で定常光はオフになり、本機がリサイクルしてフラッシュの準備が整うとオンになります。
- SOUND & DIM (サウンドとディム) : 本機はサウンドとディムの両方で信号を出します。
- OFF (オフ) : 本機は、フラッシュの準備ができたことを示す信号を出しません。

### 注

テストボタンは発光後必ずオフになり、本機の充電が完了すると再びオンになります。

## Control Sounds (サウンドのコントロール)

「CONTROL SOUNDS (サウンドのコントロール)」を「ON (オン)」または「OFF (オフ)」に設定すると、コントロールノブとボタンのサウンドを有効または無効にできます。工場出荷時は「ON (オン)」になっています。

## Warning sounds (警告音)

WARNING SOUNDS (警告音) を「ON (オン)」または「OFF (オフ)」に設定すると、誤露出アラーム音を有効または無効にできます。工場出荷時は「ON (オン)」になっています。

### 注

EXP インジケーターは、警告音設定にかかわらず、誤露出アラームが作動する際には必ずメニューディスプレイ [8] に一時的に表示されます。

## Display brightness (ディスプレイの明るさ)

「DISPLAY BRIGHTNESS (ディスプレイの明るさ)」の設定を使用すると、ディスプレイの明るさを設定できます。3 段階から選択可能で、工場出荷時は「AUTO (自動)」になっています。

- AUTO (自動) :
- MAX (最大)
- MEDIUM (中)
- LOW (低)

## Auto Sleep (オートスリープ)

「AUTO SLEEP (オートスリープ)」の設定では、本機がバッテリーを節約するためにスリープモードに入るまでの待機時間をタイマーで設定します。4段階から選択可能で、工場出荷時は30 MIN (30分) になっています。

- 5 MIN (5分) : 5分間操作しないとスリープモードに入ります。
- 30 MIN (30分) : 30分間操作しないとスリープモードに入ります。
- 1 HOUR (1時間) : 1時間操作しないとスリープモードに入ります。
- NEVER (そのまま) : スリープモードに入ることはありません。

## Auto on (自動ON)

AUTOON (自動ON) 設定は、ユニットが主電源に接続されたときの動作を決定します。工場出荷時は「ON (オン)」になっています。

- ON (オン) : ユニットは完全に始動します。
- OFF (オフ) : ユニットはスタンバイモードで起動します。

### Display orientation (表示方向)

DISPLAY ORIENTATION (表示方向) の設定により、本機の情報表示方向を変更します。3 段階から選択可能で、工場出荷時は「AUTO (自動)」になっています。

- AUTO (自動) ディスプレイの向きは、ユニットの向きに基づいて自動的に調整されます。
- NORMAL (ノーマル)
- REVERSED (逆転)

### Unit Stats

UNIT STATS セクションには、これまでの累計値が表示されます: Flash count (トリガーされたフラッシュの回数)、Runtime (稼働時間)、Power-on count (セッション数)。

### About (概要)

「ABOUT (概要)」セクションには、シリアル番号やハードウェア、インストールされているファームウェアなど、ユニットに固有の情報が表示されます。

### Regulatory info (規制情報)

このセクションには、規制に関する情報が表示されます。

### Factory reset (出荷時の設定に戻す)

「FACTORY RESET (初期設定にリセット)」を使用すると、あらゆる設定が工場出荷時の設定にリセットされます。

## 接続

Pro-D3 には Profoto AirX 接続が内蔵されています。AirX は、Air と AirTTL に続く第3世代の Profoto 無線接続です。

AirX は以下をサポートしています。

- Profoto Air/AirTTL 対応リモートでの無線 Air/AirTTL 機能。
- AirX 対応 Profoto リモートおよびアプリでの専用 AirX 機能。

### Profoto リモートとの接続を設定する

以下は Pro-D3 での基本的な設定手順のみ記載しています。詳細な操作手順については、お使いの Profoto リモートのユーザーガイドを参照してください。

1. Pro-D3 設定メニューで Air を ON (オン) に設定します。
2. Pro-D3 設定メニューで、Profoto リモートで設定したチャンネルと同じものを選択します。
3. Pro-D3 設定メニューでグループ (A~F) を割り当てます。

### Profoto リモート使用時のオート (TTL)

オート (TTL) の場合、Air チャンネルとグループ設定が完了していれば、本機での特別な設定は必要ありません。お使いの Profoto リモートでオート (TTL) とマニュアル (MAN) を切り替えて、リモートがフラッシュを自動で調整するかマニュアルでコントロールするかを選択するだけです。

Pro-D3 は、リモートをマニュアル (MAN) に切り替えた場合、オート (TTL) で設定した出力を維持します。これにより、いわば「露出計」としてオート (TTL) をマニュアル調整の開始点に利用することができます。

リモートによりオート (TTL) が有効になると、**AUTO** インジケーターがディスプレイ [8] に一時的に表示されます。

リモート上でオート (TTL) グループ調整がされていると、オフセットを含めて **AUTO** インジケーターがディスプレイ [8] に一時的に表示されます。

### Profoto リモート使用時のハイスピードシンクロ (Hi-S)

ハイスピードシンクロ (Hi-S) の場合、Air チャンネルとグループ設定が完了していれば、本機での特別な設定は必要ありません。ハイスピードシンクロはリモートまたはカメラで有効化されます。

リモートによりハイスピードシンクロが有効になると、**Hi-S** インジケーターがディスプレイ [8] に一時的に表示されます。

## Profoto アプリ

Profoto アプリでは新機能を継続的にアップデートしています。また、Pro-D3 の最新機能のアップデートやバグ修正も、アプリからアクセスできます。

Profoto アプリを利用するメリットの一部を紹介します。

- 簡単な登録とアップデート。購入製品を登録して簡単に Pro-D3 の最新アップデートを入手できます。
- スマートなリモートコントロール。スマートフォンの画面から Pro-D3 をコントロールできます。
- スマートフォンカメラでの撮影。スマートフォンでの写真撮影に本物のフラッシュを利用いただけます。

Profoto アプリは、App Store、Google Play、Huawei AppGallery から入手できます。Profoto アプリの詳細については、Profoto.com をご覧ください。

Profoto アプリを Pro-D3 に接続するには、Bluetooth を有効にする必要があります (Bluetooth のセクションをご覧ください)。次に Profoto アプリを起動してアプリ内の指示に従います。

# メンテナンス

## お手入れ方法

ユニットを掃除するには、中性洗剤で湿らせた柔らかい布で拭いてください。その後、別の柔らかい乾いた布で拭きとります。

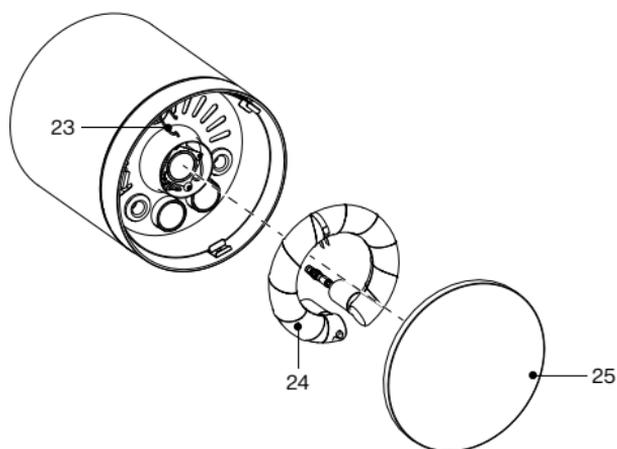
## フロントガラス、フラッシュチューブを交換する

### 警告 - 感電 - 高電圧

電源コードを外し、内部高電圧を放電させるため、少なくとも 10 分待ってから保護フロントガラスを取り外してください。フラッシュチューブおよび/またはフロントガラスを交換する際は、必ず保護手袋と保護メガネを使用してください。ガラスにひびが入っている場合は、絶対にフラッシュチューブに触れたり、交換しようとしたりしないでください。

フラッシュチューブを取り外す：

1. フロントガラスシート [25] をそっと押しながら、小さなマイナスドライバー（または同様のもの）を使って片方のガラススプリングを金属シリンダーに向けて押し、取り外します。
2. シートメタルリボンを広げ、ペンチ（または同様のもの）でフラッシュチューブのスプリング [23] を挟みます。
3. フラッシュチューブ [24] の後ろにケーブルタイ（または同様のもの）を挿入します。
4. ケーブルタイを使用してフラッシュチューブ [24] を引き出します。



23. フラッシュチューブ・スプリング

25. フロントガラス

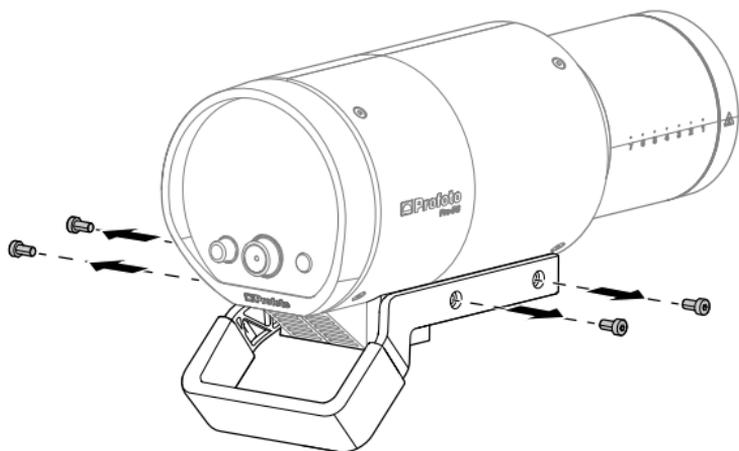
24. フラッシュチューブ

フラッシュチューブを追加する：

1. フラッシュチューブのコンタクトピンを、突出した白いソケットに挿入します。損傷の危険を避けるため、フラッシュチューブの脚の上のガラス面に手で圧力をかけてください。フラッシュチューブ[24]を底まで押し込みます。フラッシュチューブ・スプリング[23]がリボン内を通過していることを確認します。
2. フラッシュチューブ・スプリング[23]の周りのリボンをつまみ、ガラスの方に折ります。
3. ガラスシート[25]を2つのスプリング面に置き、両方の部分で挟まれるまで押します。ドライバーを使用して3つ目のスプリングを金属シリンダー側に押し付け、ガラスシート[25]をすべてのスプリングの間に入るまで内側に押し込みます。

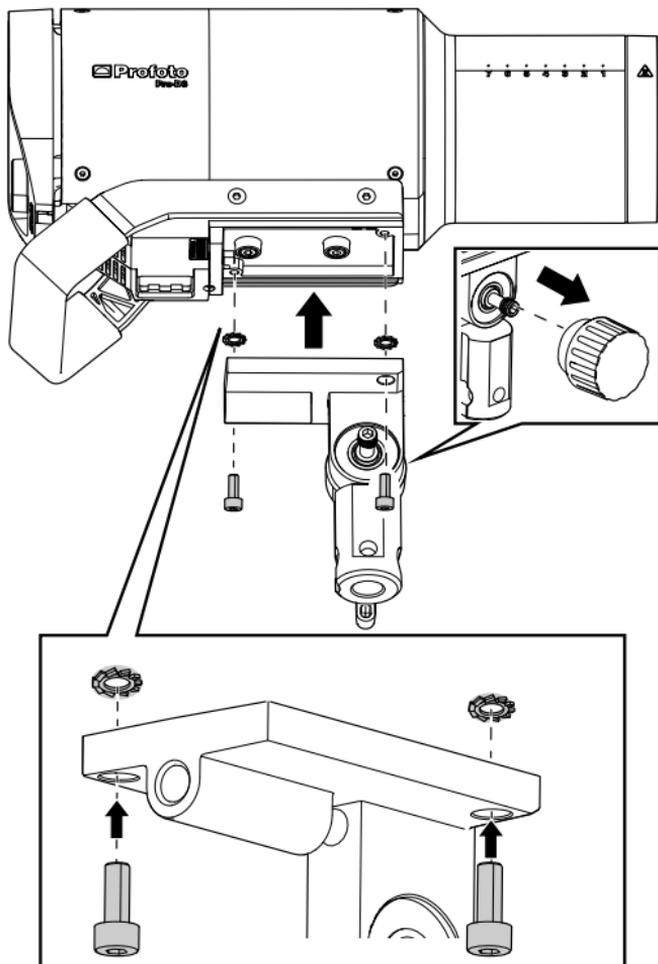
## ハンドルを交換する

1. 3mmの六角レンチを使い、ハンドルを固定している4本のネジを緩め、ハンドルを取り外します。
2. 新しいハンドルを所定の位置に取り付け、4本のネジをねじ込み、2 Nmのトルクで締めます。



## スタンドアダプターを交換する

1. チルトロックノブ [16] をゆるめ、ネジにアクセスします。
2. 3mmの六角レンチを使い、スタンドアダプターを固定している2本のネジを外します。スタンドアダプターと鋸歯状ワッシャーを取り外します。
3. 鋸歯状ワッシャーと新しいスタンド・アダプターを所定の位置に取り付け、2本のネジと2Nmのトルクで締め付けます。



## その他

### 過熱保護

本機が内蔵過熱保護機能が有効になる温度レベルに達すると、温度制限インジケータがディスプレイ [8] のメイン画面に表示されます。この場合、温度が許容可能なレベルに戻るまでパフォーマンスが制限されません。

### シリアル番号

シリアル番号は、本体下部の電源接続部[5]の横に印刷されています。また、ディスプレイ [8] で「SETTINGS (設定)」>「GENERAL (一般)」>「ABOUT (概要)」と進んで確認することもできます。

## 技術仕様

---

モデル名	Pro-D3
Regulatory model (規制モデル)	PCA1605
動作温度	0°C ~ +35°C / +32°F ~ +95°F
保管温度	通常の室内環境で保管
入力電源	AC 100-240V、50/60Hz、クラス I 、最大 2000W、最大 10A
動作周波数と無線出力電力 (Air および Bluetooth Low Energy)	2402-2480 MHz - <10 dBm EIRP

---

技術仕様の詳細については、[Profoto.com](http://Profoto.com) をご覧ください。

Pro-D3 1250		Ecoモード		Boostモード		Freezeモード	
		閃光時間		閃光時間		閃光時間	
エネルギー (スケール)	エネルギー (Ws)	t0.5(s)	t0.1(s)	t0.5(s)	t0.1(s)	t0.5(s)	t0.1(s)
10.0	1250	1/1400	1/400	1/1400	1/400	1/1400	1/400
9.0	625	1/1400	1/400	1/1400	1/400	1/1700	1/900
8.0	313	1/1800	1/600	1/1800	1/600	1/3000	1/2400
7.0	156	1/2000	1/900	1/2000	1/900	1/7000	1/4300
6.0	78	1/2200	1/1500	1/2200	1/1500	1/13000	1/6300
5.0	39	1/2400	1/2000	1/2400	1/2000	1/17000	1/8000
4.0	20	1/3500	1/2700	1/3500	1/2700	1/25000	1/9300
3.0	10	1/4200	1/3300	1/4200	1/3300	1/26000	1/9700
2.0	5.0	1/4700	1/3500	1/4700	1/3500	1/43000	1/11800
1.0	2.5	1/5000	1/3600	1/5000	1/3600	1/62000	1/12300
0.1	1.3	1/5000	1/4000	1/5000	1/4000	1/62000	1/12800

技術仕様の詳細については、[Profoto.com](http://Profoto.com) をご覧ください。

Pro-D3 750		Eco モード		Boost モード		Freeze モード	
		閃光時間		閃光時間		閃光時間	
エネルギー (Ws)		t0.5(s)	t0.1(s)	t0.5(s)	t0.1(s)	t0.5(s)	t0.1(s)
10.0	750	1/1900	1/600	1/1900	1/600	1/1900	1/600
9.0	375	1/1900	1/700	1/1900	1/700	1/2700	1/2100
8.0	188	1/2000	1/1100	1/2000	1/1100	1/6500	1/4100
7.0	94	1/2000	1/1600	1/2000	1/1600	1/13000	1/6200
6.0	47	1/2300	1/1900	1/2300	1/1900	1/18000	1/8100
5.0	23	1/2400	1/2000	1/2400	1/2000	1/23000	1/9400
4.0	12	1/2900	1/2400	1/2900	1/2400	1/29000	1/10300
3.0	6.0	1/4600	1/3800	1/4600	1/3800	1/30000	1/11300
2.0	3.0	1/7000	1/4000	1/7000	1/4000	1/57000	1/12700
1.0	1.5	1/7000	1/4200	1/7000	1/4200	1/75000	1/13200
0.1	0.7	1/7000	1/5000	1/7000	1/5000	1/75000	1/15900

技術仕様の詳細については、Profoto.com をご覧ください。

## 保証

Profoto によって、または Profoto のために製造され、Profoto の商標、名称、またはロゴが付されたすべてのジェネレーター、ヘッド、およびリモートコントロールは、出荷前に個別にテストされ、保証条件に記載された例外を除き、2 年間保証されます。製品に技術的な問題がある場合は、公認 Profoto サービスステーションに連絡するか、次のサイトをご確認ください：<https://profoto.com/support/warranty>

## クレジット

App Store は、米国および他の国で登録されている Apple Inc. の商標です。

Google Play および Google Play のロゴは、Google LLC の商標です。

HUAWEI および AppGallery は、中国およびその他の国で登録された Huawei Technologies Co. Ltd の商標です。

Bluetooth ワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標です。Profoto による当該マークの使用はすべて、ライセンスに基づいて行われています。

USB Type-C および USB-C は USB Implementers Forum の登録商標です。

その他の商標と商品名は各所有者の所有物です。



Profoto AB  
Box 1264,  
17225 Sundbyberg  
Sweden

+46 (0) 8447 53 00  
info@profoto.com  
www.profoto.com

 **Profoto**

技術データと製品情報は予告なく変更される場合があります。

2024年2月 PGM0046-0000. スウェーデンにて印刷。